

令和5年度版

保護者向け
家庭学習の手引き
～自ら学ぶ子へ～



江別市立豊幌小学校

1、家庭学習の手引きについて

豊幌小学校の子どもたちは、学校生活の中で一生懸命に学習に取り組み、友だちと元気に遊び、家庭や地域での温かい関わりや体験を通して、たくましく成長しています。

さらに子どもたちが将来にわたって学力をしっかり身につけるためには、学校での授業とともに、生活習慣をきちんと身につけることや、自ら進んで学習しようとする習慣をつけることが大切です。そのためにも、小学校低学年からご家庭でも机に向かう習慣をつけ、自分で学習することの楽しさを少しずつでも感じることができるよう、保護者が励ましていくことが大切になると考えます。一日一日を大切に、小さい頃から家庭学習の習慣化が図れるようにしていきたいものです。

本校では、これまでも保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、家庭学習の習慣も着実に身につけてきており、「家庭学習計画表」による取り組みも定着しています。今後も引き続き、「学習の自律」をめざし、お子さんが自分に必要な学習を自分で計画を立て、それに沿って自ら取り組んでいく力を育めるよう支援していきたいと考えています。

学校では家庭学習の習慣化と質の向上を旨とし引き続き指導していきますが、ご家庭でもこの「学習の手引き」を参考にしながら、お子さんの学習意欲の向上や学習内容の定着を図って頂ければと思います。今後も引き続きご家庭で子どもたちの学習の様子をご覧いただき、楽しく充実した家庭学習が出来ますようご協力をお願いいたします。

2、家庭学習で育てたい子ども

生活時間の有効な使い方を 身に付けた子ども

テレビやゲームの誘惑に負けない心が身に付きます。学校とは違って、自分で学習を始める時間を決め、学習に取り組むことは、我慢強さ・根気・集中力を養うことができます。

見通しを持って 計画的に学習する子ども

家庭学習を自分で計画することで、自分に必要な学習を考えたり、内容をふり返ったりするサイクルができ、見通しや目標を持って取り組む自律の心を養うことができます。

**できた！
わかった！
やってみたい！**

基礎的・基本的な学習内容を 身につけた子ども

学習の復習を積み上げることで確かな学力が身につく、やればできるという自信につながります。

家庭学習の習慣や方法を 身につけた子ども

低学年から、毎日決めた時間に学習することで自ら学ぶ習慣が身につきます。

3、子どもを伸ばす4つの習慣

子どもたちの学力を伸ばすために必要な「気力」や「体力」の基礎づくりができる最良の場は、家庭なのです。本校では『家庭学習の手引き』の中で、「4つの習慣作りをしましょう」と提案しています。

1、生活習慣

(規則正しい生活リズム)

2、食習慣

(バランスの良い食事と
適度な運動)

3、学習習慣

(毎日の家庭学習を
大切に)

4、読書習慣

(いろんなジャンルの
読書を)

ほめて やる気をおこす!! 1・2年生

- ・学習を始める前にテレビなどを消しましょう。勉強をする場の整理整頓をしましょう。
- ・学校からの連絡やお便り、明日の授業などを子どもと一緒に確かめましょう。
- ・いっしょに学習内容のやり方を決めたり、計画表のアドバイスをしたりしてあげましょう。
- ・学習時間を決めて、家庭学習をする時は近くにおいてあげましょう。
まずは、毎日宿題をやりきることを続けましょう。
- ・一緒に買い物をしたり、時計をよんだりしながら、子どもの生活経験をふやしましょう。
- ・できたことをほめることで、子どもたちの意欲が高まります。

認めて ほめて 自信をつける!! 3・4年生

- ・家族のあたたかい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物を点検したりするなどの手助けが必要です。徐々に自分でできるように支援していきましょう。
- ・自分から机に向かい集中して取り組む姿勢を育てると共に、自分で立てた計画を守ろうとする気持ちを大切にしましょう。
- ・学習をする前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させ必ずやりきらせましょう。
- ・学校からのお便りなどを親に手渡す習慣を付けましょう。

見守って 伸ばす!! 5・6年生

- ・考える力が大人並みになり、自我が目覚め自分の考えを強く主張するようになります。
- ・「やればできる」という気持ちをもたせ、子どもの自尊心を育てるように、認めたり励ましたりすることが大切です。
- ・家族の一員として、お手伝いや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようにしましょう。
- ・学習する場所を決め整理整頓し、計画を立てて学習が進められるようにしましょう。
- ・自分の学習をふり返り、よりよい学習に取り組もうとする姿勢を褒めて励まし、子どもの自律の姿勢を養いましょう。

4、大事な保護者の力

最初に述べたように、学校と家庭が力を合わせ、足並みをそろえて子どもたちの指導にあたっていくことはとても大切なことです。子どもを伸ばす4つの習慣の確立を図るため、保護者の皆様には、次のようなご協力をお願い致します。

家庭学習のポイント

① 決まった時間に、毎日コツコツ続ける

家庭学習は、毎日続けることが大切です。習い事やお出かけなどで、予定が組みにくい日もあるかと思いますが。その場合は、先に済ませたり、テレビやゲームを控えたりして、時間を生み出すことも必要になります。家族で十分に話し合しましょう。

② 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。長時間学習することで成果が上がるとは言えません。短時間でも集中して学習することが、長続きのコツです。学年×10分+10分を目安にして集中して頑張ることを心がけてください。

③ 家庭学習をしている時は、テレビを消す

テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁です。また、テレビの音が聞こえるような環境も子どもは集中できません。見たい番組は録画するなどして工夫しましょう。静かに学習できる環境をつくりましょう。

④ 整頓された場所で、よい姿勢で学習する

整頓された机に向かって、よい姿勢で学習するようにしましょう。マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあると学習に集中できません。親の目が行き届き、本人が安心して落ち着いて集中して学習できる環境づくりが大切です。

⑤ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

家族や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより子どもには自信が付き、進んで学習しようとする意欲が高まります。つつい口うるさくなりがちですが強制したり、間違いをきつく叱ったりすることは、逆効果になることもあります。計画表に沿って学習しようとする姿もどんどん褒めてあげてください。

⑥ 学力アップは規則正しい生活から

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、調査でも明らかになってきています。学校でも家庭でも生き生き元気に学習に取り組めるように、早寝早起きをし、朝ご飯をしっかり取らせましょう。就寝時間は、それぞれの家庭の事情があるかもしれませんが、7時間以上の睡眠時間はぜひ確保したいものです。

⑦ 読書の楽しさを感じさせましょう

読書は、子どもの表現力を高め、豊かな感性を培うものであり、社会性や人間性をはぐお上で欠かすことのできないものであると言われています。

まずは、読み聞かせや子どもと一緒に本を読むことで、読書の楽しさを感じさせましょう。

⑧ 学校の先生との連絡を密にしましょう

わからないことや困ったことは、遠慮せずに、学校の先生に相談してください。保護者とともに、お子さんのことを一緒に考えていきたいと思っています。

5、家庭学習の方法

1・2 年生	<ul style="list-style-type: none">・机に向かう習慣をつける。・宿題を最後まできちんとやりきる。・「早寝早起き」「規則正しい食事」「学習用具の準備」などの基本的な習慣を身につけることが大切です。・一人で学習を進めることは、まだ難しいと思われます。宿題を中心に、一緒にしたり、近くにいてあげたりして、できたことをほめてあげながら、意欲を高めましょう。・計画表に沿って計画通りに進められるよう声をかけていきましょう。
3・4 年生	<ul style="list-style-type: none">・集中して宿題をやりきる。・家庭学習の習慣を定着させる。・わからないことや興味のあることを自分で調べる。・身の回りのことを自分でできるようにするため、学習だけでなく、自分の事は自分でする習慣をつけさせることが大切です。宿題や持ち物の点検が、少しずつ自分でできるよう励ましてください。・社会・理科・総合的な学習が始まります。国語辞典や地図などの使い方を学習し、自分で調べることも多くなります。困っているときは一緒に調べたり、地域社会の自然や文化・産業に触れる機会があれば触れさせてあげたりしてください。・急に学習が難しくなり、苦手意識を持つ子どもも出てきます。音読・漢字・計算など基本的な学習もうまくできればほめるなどして、自信を持って取り組めるよう、見守ってください。・自分に必要な学習や苦手なものを考えて計画を立て、学習内容を工夫してみましょう。
5・6 年生	<ul style="list-style-type: none">・集中して宿題をやりきる。・自分なりに工夫して学習する。・課題やめあてを自分で見つけ、調べ、まとめる。・「やればできる」という自尊感情を高められるように認め励ますことが大切です。・学習意欲が出るよう、特に、積み重ねが大事な漢字や計算等の学習については、テストの結果だけでなく、勉強する過程の努力を認めてあげましょう。・読書・新聞やテレビのニュース等を通じて、世の中や将来について興味を持たせ、家族で話し合う機会を持ちましょう。・「計画」、「実施」、「ふり返り」のサイクルを大切にし、自律した学習をめざしましょう。
<p>家庭学習の時間のめやす</p> <p>学年×10分 + 10分 (例えば、6年生なら $6 \times 10 + 10 = 70$分)</p>	

北海道教育委員会では、児童が家庭学習で取り組むことができる「チャレンジテスト」を作成し、web ページ上で公開しています。「北海道教育委員会チャレンジテスト」で検索すると、学年ごとの問題が掲載されていて、プリントアウトして使用できます。インターネットが利用できる環境にあれば、問題集を購入しなくても手軽に力試しができますので、活用してみたいはいかがでしょうか。公立高校入試にも活用されているそうです。

6、各学年ごとの学習内容

1年生

- 1 鉛筆を正しく持って、字が書ける。
- 2 国語の教科書を、口をはっきり開いて音読できる。
- 3 繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算ができる。
- 4 80字の配当漢字の全てが読め、ほとんど書ける。
- 5 助詞（は、へ、を）の使い方が分かる。

- 1 160字の配当漢字の全てが読め、ほとんどを書ける。
- 2 かけ算九九を暗記し、すらすら言える。
- 3 2けたのたし算、ひき算を筆算でできる。
- 4 助詞（は、へ、を）を使い分けて、文を書ける。
- 5 定規を使って長さを測ったり、決まった長さの線を引いたりできる。

2年生

- 1 200字の配当漢字の全てが読め、ほとんどを書ける。
- 2 主語、述語、修飾語の意味がわかる。
- 3 内容のまとまりを考えて、文を書くことができる。
- 4 ローマ字表を見て、読んだり書いたりできる。
- 5 かけ算の筆算ができる。
- 6 3けたのたし算・ひき算を筆算でできる。
- 7 あまりのあるわり算ができる。

3年生

- 1 200字の配当漢字の全てが読め、ほとんどを書ける。
- 2 ローマ字を適切に読み書きできる。
- 3 指示語や接続語を適切に使い、まとまりやつながりに注意して文を書くことができる。
- 4 国語辞典・漢字辞典の引き方がわかり、活用できる。
- 5 わり算の筆算ができる。
- 6 47都道府県の位置がわかり、正しく漢字で書ける。

4年生

5年生

- 1 185字の配当漢字の全てが読め、ほとんどを書ける。
- 2 敬語の種類と使い方がわかり、正しく使うことができる。
- 3 小数のかけ算、わり算ができる。
- 4 「割合」「百分率」の意味がわかり、その問題が解ける。
- 5 「平均」「速さ」の意味がわかり、その問題が解ける。

- 1 小学校で学習するすべて（1006字）を読め、ほとんどを書ける。
- 2 主語、述語、修飾語を適切に使って文章を書ける。
- 3 分数のかけ算、わり算ができる。
- 4 平均値、最頻値、中央値、代表値の意味がわかり、その問題が解ける。
- 5 歴史の流れがわかり、主な人物や出来事についての説明ができる。
- 6 世界の主な国々の名がわかり、位置を正しく示すことができる。
- 7 理科や社会で習ったことを、グラフや表にまとめることができる。

6年生

7、家庭学習(自主学習)の参考

こんな学習をしてみましょう！

国語	・教科書の書き写し ・新聞や本などの文章の書き写し ・音読 ・漢字練習 ・漢字を使った短文作り・熟語調べ ・意味調べ ・日記・詩・俳句 ・本を読んだ感想 ・テスト問題をもう一度解く
算数	・計算練習 ・教科書問題の復習 ・学習を生かした問題作り ・百マス計算 ・テスト問題をもう一度解く ・他の問題集をやる
社会	・授業で学習したことをもう一度ノートにまとめる ・グラフや写真の読み取り ・勉強に関連したことをインターネットや本などの資料でくわしく調べる ・新聞の切り抜きを使って感想をまとめる ・テスト問題をもう一度解く
理科	・授業で学習したことをもう一度ノートにまとめる ・観察記録・観察日記・実験をしてまとめる ・テスト問題をもう一度解く ・勉強に関連したことをインターネットや本などの資料でくわしく調べる
その他に	・読書をしましょう。 ・小学生新聞など、できる範囲で新聞に目を通してみましょう。 ・ニュース番組を親子で見話し合みましょう。 ・国語辞典、漢字辞典、その他の図鑑を身近において調べてみましょう。 ・日本地図、世界地図、地球儀を身近において調べてみましょう。 ・自然や生き物とふれあい、観察をしてみましょう。 ・スケッチやイラストを描いてみましょう。 ・詩や歌の暗唱をしてみましょう。 ・家の仕事を進んでやりましょう。 ・興味のあることについて、家の人や地域の人に聞いて調べてみましょう。

詳しくは、児童用の「家庭学習で力をつけよう」をご覧ください。

長い休みにはこんなことを!

学習した内容を忘れないために復習したり、苦手な内容をもう一度やり直したりすることに取り組みましょう。また、たっぷり時間をかけてふだんはできないことをやってみましょう。

- ・絵日記を続ける。
- ・プールを利用し、水に慣れたり水泳の練習をしたりする。
- ・水泳やスキーなど季節のスポーツにチャレンジする。
- ・図書館で本を借り、読書に親しむ。
- ・身の回り(自然、公園、施設など)を絵に描いたり、身の回りの材料で工作したりする。
- ・地域の行事や子ども会の活動などの学びの場に参加して、気づいたことや感じたことをまとめる。
- ・少し長めの本を読み通したり、植物や動物の成長を詳しく記録したりする。
- ・博物館や美術館などに出かけ、北海道や江別の自然や歴史、文化に触れたり、絵画などを鑑賞したりする。
- ・買い物から調理まで、家族で料理に挑戦する。 など